

平成 27 年度
第 5 期中原区区民会議 第 6 回運営部会

日時 平成27年12月21日（月）14:30～
場所 中原区役所 5階 505会議室

第5期中原区区民会議 第6回運営部会会議録

- 1 開催日時：平成27年12月21日（月）14:30～16:30
- 2 場所：中原区役所5階505会議室
- 3 出席者：板倉部会長、橋本副部会長、反町委員、中森委員、成田委員、萩原委員【委員6名】
（欠席者 仁上委員）
（事務局）小野副区長、村田担当課長【危機管理担当】、鈴木企画課長、江口係長、西山職員【企画課】、岩下氏【コンサルタント（株カイト）1名】

4 議題等

・会議録確認委員の選任

・議題

- (1) 第5期区民会議審議テーマ「地域コミュニティ、みんなで育てる交通マナー ～歩きやすいまちに～」について
- (2) 第7回中原区区民会議について

5 傍聴者 なし

6 会議内容

・会議録確認委員の選任

会議録確認委員の選任について、前回から引き続き、名簿順で反町委員を選任。

・第5期区民会議審議テーマ「地域コミュニティ、みんなで育てる交通マナー ～歩きやすいまちに～」について

まず、資料1-1「課題解決に資する提案等まとめ」及び参考資料1及び2に基づき、課題調査部会の成田部会長から、11月11日（水）に開催された第7回部会、及び12月2日（水）に開催された第8回部会における課題解決に資する提案のまとめについて、これまでの検討結果が報告された。

続いて、資料1-2「課題解決に資する提案等まとめ」に基づき、事務局から課題解決に資する提案のまとめについて説明がなされた。

【意見交換】

板倉部会長 参考の閲覧資料として、中原区まちづくり推進委員会の「マナー・モラルアップポスターコンテストの作品集」をお手元に配布させていただいた。この事業は平成12年から始まり、作品集には、平成16年から25年までの10年間の作品が掲載されている。古い作品の所蔵や保管に苦慮したことをきっかけに、作品を撮影し、電子データ化を行ったものである。作品集の24ページから自転車や交通のマナーに関する作品が掲載されている。新しく募集して作るには時間もかかるので、既存のこれらの作品の活用も考えていただけるとありがたい。

反町委員 これまで、課題調査部会のメンバーとして議論に参加していた。たくさんの意見が出てきたので、最初はまとめきれないのではないかと心配したが、皆さんの御協力でここまで来たと思う。できることなら全ての提案を実現させたいと思うところであって、どれを特にと言われても難しいが、キャンペーンやイベントについて広報大使の提案をさせていただき、提案の実現に向けて担当として名乗り出たところである。

広報大使の候補として、最近、市の様々な取組に協力をしていただいているご当地ア

アイドル「川崎純情小町」や川崎区で活動しているアーティスト「ちよっきんず」といった具体的な意見なども、部会では挙がっていた。

十分な確認が必要であるが、広報大使を受けてもらうといった、そのことだけであれば、出演料などの大きな金額は発生せずを受けてもらうことができるかもしれないが、キャンペーンやイベントに来て活動してもらう際には、その場に応じた出演料等が発生するのではないだろうか。川崎市で作成した自転車の乗り方の啓発に関する映像にモデルとして参加された経験もあるアーティストもおおり、体を張ったような企画もできるかもしれない。

広報大使やイベントの企画・運営などについては、私の得意分野であり、ぜひ今後もできる協力等をしていきたいと思う。

中森委員 どの提案もすべてできたらいいと思う。実際に、チラシやマニュアル、広報物などを作る場合は、できる限り、やさしい日本語を使って作成していただきたい。中原区は外国籍の市民が市内で二番目に多い区である。外国籍の方にアピールする意味でも、多国語版の作成は予算的には厳しいと思うが、漢字が読めない方も多いので、やさしい、分かりやすい日本語を使って記載したものができるとよい。

ベビーカーの利用のマナーについては、子育てサロンが周知や啓発の場の一つとして挙げられているが、外国籍の方が集まる子育てサロンも区内ではあるので、そうした場でもアピールできるとよい。

自転車の安全点検は自転車販売店などの協力を得て、点検をすると押印をすとか、やってはいけない運転などが内容として盛り込まれたマニュアルや啓発資料を自転車の購入者に渡して周知できるとよいと思った。

萩原委員 これらの提案が実現できるとよいと思う。外国籍の方だけでなく、子どもも分かるよう、イラストや漫画などを使って交通マナーなどの「見て分かる資料」にすることが大切だ。知名度のある方に広報大使を引き受けていただくのもインパクトがあるので、しかかけとしてはよいだろう。

「自転車安全運転者証」のようなものが実現すれば一番よいと思うところで、様々な団体と協力しながらやっていくのも区民会議らしいので、こちらもあきらめず取り組んで欲しいと思う。一步でも二歩でも取組が進んでいくことは素晴らしいことだ。

成田委員 マナー・モラルアップポスター作品集を拝見させていただき、放置自転車を取り上げた作品が多いということから、10年以上昔から現在に至るまで自転車に関する問題意識が継続していることを改めて感じさせられた。平成15年に作品を応募した児童は、もう成人しているだろうから、この作品を利用した啓発物を作成して掲示されているのを見たら、驚くかもしれない。また、今、この会議室の向かいの会議室で行われている両親学級に参加している親の中には、この企画に作品を応募した方もいるかもしれない。そうした場などでベビーカーのマナー用の啓発のチラシなどが配ればよいと思った。

中原区と自転車は切っても切れない関係にある。自転車のマナーを普及させていくことや守っていくことを長期的に考え、機会を捉えて継続的に取り組んでいけるとよい。

「自転車安全運転者証」は、課題調査部会で議論した際には、やるならば権威づけのあるしっかりとしたものになりたいということや、また、仮に持っていれば自転車点検などのサービスが受けられるといった何か特典があるものになりたいという意見が出た。ただ、大前提として、普段からマナーを守って自転車に乗る区民が増えるように、自転車マナーなどの注意喚起をしていくことがまずは必要であって、結論としては、取り組み

やすいことから取り組んでいこうという意見であったと思う。また、反町委員のおっしゃるようなイベントなどで視覚的に訴えていくことも必要であると思う。

橋本副部長 どの取組を実施するにしても、どのような場で実施し、どれだけの人をどういった手段で集めるのか、また、費用が発生する場合、その費用をどのように集め、どのように分担するのかを検討することが必要である。

私は、交通マナーの向上は、イコール交通事故の防止につながるのではないかなと思う。自転車の安全点検については、自転車販売業者などの協力も得ながら進めていくとよいのではないかな。例えば、ひったくり防止の袋、反射板などを点検の際に、併せて配布するといった事業にしていくとより効果的ではないかな。多角的な展開を図っていければさらによい方向になるのではないかな。

板倉部会長 取組の実施スケジュールが気になっている。私たち5期の委員の任期である6月までにできるのか。どう考えたらいいのか。

また、第7回の本会議への提案にあたり、もう少し整理した方がよいのかどうか。大きく3つにまとめた、このまとめ方などについても意見があるか。

反町委員 私は今の3つの取組案としてのまとめでよいと思う。

板倉部会長 スケジュール的にできないものもあるように思う。

反町委員 取組のスケジュールを任期内に限定してしまうとできないものばかりになってしまうので、私の認識では、場合によっては任期を越えて、継続的に取り組んでいくといった考えである。任期内で全てまとめあげるのは難しい。

板倉部会長 これまでの区民会議で一部の課題や提案を次期に送るようなケースはあったか。

事務局 例えば第4期では、3つ目の検討テーマについて、その期の中で必ず取り組むわけではなく、任期後のスケジュールも想定してまとめていた。

板倉部会長 私自身もそれでよいと思う。今期は一つ一つのテーマにじっくり取り組むために審議テーマの数を3つから2つにしたという経緯もあったが、それでもなかなか全てを任期内で行うことは難しい。いたしかたない面がある。

反町委員 私の意見としては、任期に縛られず、それ以降も取り組んでいく想定があつてよいのではないかなと思う。私は委員を3期務めたので、今期で退任することになるが、その後もできることは協力させていただきたい。

中森委員 テーマ自体が重要なテーマであるので、次期以降も、継続的に検討していくことが必要ではないかなと思う。成果を少しでも出して、区民の皆さんに報告しなければならないという思いもあるが、第5期で全てを終わらせる必要はないと思う。

萩原委員 第6期は新しいメンバーで、その思いも取り入れながら、また新たにテーマの検討から始める。新しい期のテーマ検討と、5期の取組の実践が並行的に行われていてもよいと思う。取組が途切れてしまうような形にはしたくない。市民報告会で2つ目のテーマの「交通マナー」については、中間発表・報告というような形になり、集大成とはなかなかならないのではないかな。

成田委員 区民会議の目的の一つとして、区民の皆さんが抱えている問題意識や課題を表に出して、仮に、課題の解決に向けた啓発をしていくということ、それだけでも立派な成果になる。実際に、どこに依頼していけば効果的に発信できるかという意味では、委員の所属団体に働きかけていくこともできる。今回、ベビーカーのマナーの課題が取り上げられたのは中原区らしく、それを子育て関連の団体を通じて働きかけていければ、今期の委員の任期終了以降も取組が広がっていく形がとれるのではないかな。取組案をいつまで

にという形ではかえってやりにくい。

例えば、啓発ポスターのコンテストなどは、子どもたちを対象として長期休暇を利用するのであれば、夏休みを想定に入れる必要もあるだろうから、すぐにできるといったものではないし、また、最終的に残った提案などは次期の委員に繋いでいったり、提示だけでもできればよいのではないか。

すぐできることもいくつかあるので、できることからすぐに取り組んでいきたい。

橋本副会長 期限内にまとめられる事業と、継続が必要な事業と仕分けをしなければならないのではないか。

コンサルタント 提案内容をすべて6月までに実施するのは不可能だ。先ほどの意見にもあったように、子どもたちを対象とした取組であれば、長期休暇などを利用するわけなので、すぐに取り組めるわけではなく、また、実施するための財源が必要というのであれば、行政の予算獲得や請求にも手続きの期間が必要である。

これまでも任期内でできることは提案等を実施して、期の報告としてまとめていくといった流れであったが、これはすべての提案について該当するわけではなく、区民会議の提案を行政が受け取って、期の終了後に事業化していったものもある。今回、各提案の主な担当委員を決めていただいて、今後もその委員と連携しながら、取組を進めていただくことも想定している。

事務局 行政でも単年度で終わる事業もあれば、ホップ・ステップ・ジャンプというように、数年かけて段階的に計画していく事業もある。

今回出された提案について任期の中でできるものについてはもちろん行政も協力して実現していくが、次期以降に申し送るものもあると想定されるわけで、次期の委員の皆さんに、取組等の検討の継続が必要であるとの判断がいただければ、継続していくこともある。

板倉部会長 まちづくり推進委員会のマナー・モラルアップポスターの作品の募集では、面白いことに、子どもたちから放置自転車に関する作品の応募が多かった年には、実際に、放置自転車の問題が世間で取り上げられていたり、重点区域での路上喫煙禁止やポイ捨て禁止に違反すると過料が科せられるといった条例が制定された際には、ポイ捨て禁止に関する作品が多いといった傾向が見られた。この状況から、子どもたちは結構、敏感に世の中を見ていて、地域の課題を反映した作品が多くなったのではないか。

萩原委員 学校の先生から、特に、課題について生徒に投げかけがあったということではないのか。

板倉部会長 ポスター募集の当初は、標語を決めてそれに沿って募集していたが、途中からどのような内容や課題でもいいからという設定にした方が、子どもたちが書きやすいのではないかということになった。区民会議から提案して、この作品集を使ったポスターを掲示する場所などがあれば、啓発の効果があるのではないか。

コンサルタント 以前は自転車を売っているのは自転車専門店ぐらいであったが、最近はディスカウントストアや大型スーパーマーケットでも自転車が販売されており、自転車を販売する時点で、店舗に依頼して啓発資料をくまなく配布するというのは難しいのではないかとの意見が課題調査部会で出された。

板倉部会長 既存の事業との連携・協力ということも考えていかなければならない。区が主体でのあたりは考えていただけるのか。

事務局 区が関係団体と区民会議の間に入って、接着剤になることは可能である。

板倉部会長 既存の取組で活用できそうなものがあるかと思う。

萩原委員 6月までだとやはりできることは限られてくる。

コンサルタント 6月までに実現はできなくても、実現への道筋をつくることのできるものはあるのではないか。

萩原委員 啓発ポスターの作成や、啓発イベントの開催及びその場での広報・周知に関して、自転車の交通安全に関係する諸団体に働きかけて実現への道筋をつくり、「こういうことが大切だ」といった委員の中での共通認識を形成するところまでは6月までにできそうではないか。

コンサルタント 6月までには実現できないが、6月までに根回しや働きかけを始めなければ実現できない取組はある。区民会議の市民報告会では「ここまでできている」という報告でもかまわないのではないか。

萩原委員 1つ目のテーマの取組として、親子で集まる機会を利用したのと同じように、交通マナーで働きかけができないか。例えば、他の親子に関するイベントに便乗して、ベビーカー利用のマナーの啓発などできないだろうか。

事務局 例えばスクエアド・ストレート方式の自転車交通安全教室は、これまでは生徒だけが体験するものだったが、今年度から授業参観日に行い、保護者や祖父母の方にも見ていただく機会をつくるまで発展した。課題調査部会でまとめられたように、さらに他のイベントとの共催などができるとよい。

萩原委員 学校の協力を得られるなどすれば、一から取り組むよりも実現しやすい形になる。

事務局(危機管理担当) 毎年、交通安全運動が年4回開催されており、中原区の交通安全に関する年間の計画やキャッチフレーズなどが作られている。これに広報大使を受けていただいたアーティストを起用して、イベントなどで活用してもよいと思う。子どもの場合、先ほどのポスターの募集などができるかもしれないが、大人や高齢者からも作品を集めるのならば、川柳や標語などにすれば幅広く募集できるのではないか。ユニークな作品や、大人や子どもそれぞれの視点からの作品が集まれば面白いと思う。

萩原委員 交通安全に関するキャンペーンの日程等は決まっているのか。

事務局(危機管理担当) 新入学児童を交通事故から守る運動は4月、春の交通安全運動は5月、夏の交通事故防止運動が7月、秋が9月、年末が12月となっている。12月の年末の活動では、自転車灯の早めの点灯を呼びかけるなど季節に合わせた活動を行っている。

萩原委員 4月に間に合うようにできると一番いいが。交通安全関係団体も関わっているイベントだろうから、あえて区民会議だけでイベントを企画する必要もなくてよい。

事務局(危機管理担当) 関係団体の皆さんから川柳や標語、写真といった作品集めることもできるかと思う。

萩原委員 市の広報などに載せるタイミングも大切だ。4月の活動に間に合わせるなら早く動く必要があるのではないか。

事務局 平成27年度の春の交通安全パレードは5月12日(火)に開催されていた。

事務局(危機管理担当) 選挙等により、前後することがあるが、毎年ほぼ同時期に開催している。

萩原委員 よい機会ではないだろうか。

事務局(危機管理担当) キャンペーンの初日にパレードを行うことが恒例になっており、過去には一日所長を著名人をお願いしたり、コンサートを開催したといった実績がある。

コンサルタント 広報大使のお披露目としてもいい機会になりそうだ。

事務局(危機管理担当) こちらからもお願いしたい。交通安全運動等の広報にもなる。

板倉部会長 現役世代にはどのように働きかけていったらよいか。現役世代に向けた広報はとても難しい。

反町委員 現役は難しい。自分も含め、この世代は数百人単位でも、イベントなどで集めるのにいつも苦勞する。高齢者は高齢者向けにイベントを企画し、きちんと広報し、声をかけると結構集まっていた。

橋本副部会長 時間があるからではないか。

反町委員 現役世代を集めるにはもともと集客力のあるイベントとうまくコラボレーションするか、よほど魅力的なコンテンツがないと難しい。

中原区では毎年3月に、「InUnity」という音楽イベントをエポック中原で開催していて、若者や子どもたち、子育て世代も集まるイベントとなっている。今年度は同会場が使えないため、1月10日（日）に区役所で開催予定であるが、このイベントはミュージシャンやダンスグループの発表の場となっており、若者が集まる貴重なイベントとなっている。

コンサルタント 現役世代に参加してもらうためには、企業等のCSR活動等の一環として参加・協力いただく、つまり仕事として参加いただくか、または週末に家族サービス、家族で楽しめる形として参加していただけるような形を工夫しないとなかなか参加していただけない。どうしても仕事優先になるし、時間がなかなかとれないという方が多い。課題調査部会の中では、交通安全教室や講座を企業と連携してできないかという案も出た。キャンペーンも親子で楽しめる魅力的なものにできれば、集められるのではないかと思う。

中森委員 区内にある企業の富士通では、春に桜まつりというイベントを毎年やっている。こうした場も活用できるとよい。近所の親子がたくさん集まっているようだ。小学校での自転車交通安全教室は3年生が対象となっているが、親が見学できるよう週末に行くなど、学校にお願いしてできないか。いろいろな方が見学できるようになるとよいと思う。

コンサルタント 大企業などが地域に開放する形でイベントを開催している例は確かにある。また、社員運動会などを開催している例もある。そうした場で5分でも良いので、時間をいただいてアピールしてはどうか。区内企業の勤務者の中には、自転車の通勤者も多いのではないか。

板倉部会長 自転車通勤者は多そうである。

中森委員 近くにはNECもある。

板倉部会長 自転車通勤者を強制的に保険加入させている企業もあると聞いている。

中森委員 区役所1階区民課などのロビーの待合時間に映像を流すことなどは可能か。

事務局 最大15秒程度の短い内容やメッセージであれば可能かもしれない。広告収入で運営しているため、長い映像を放送するのは難しい。交通安全運動の開催時期に合わせた短い周知広報等なら可能性がありそうだ。

コンサルタント 募集した標語などが写せるとよいかも。

事務局 スライド1枚程度であれば、交渉次第ではないか。また、区役所庁舎内でのアナウンスは、可能である。例えば、振り込め詐欺防止や最近ではマイナンバー詐欺に関する予防のアナウンスを行っている。

反町委員 区や市の施設で大型ディスプレイを設置しているところが増えている。中原区ではないが、例えば川崎駅のアゼリアビジョンなどの大きな画面で表示できればインパクトがある。どこか使えるところがないか探りたい。例えば川崎フロンターレの試合の前後や

ハーフタイムにビジョンを使って市関係の広報が流れることもあったように記憶している。お願いしてみてもどうか。15秒でも良い。もし、30秒いただくことができれば、かなりのメッセージを映像で伝えることができる。こすぎコアパークにも大型ビジョンがあったと思うが。

事務局 こすぎコアパークの小杉ビジョンについては、今年4月の選挙の際に、選挙広報をさせていただけないかと所管先をお願いしたところ、有料とのことで広報を断念したことがある。

成田委員 私の娘は20代で、いわゆる現役世代だが、平日、中原区にいる時間が短い。自転車での通勤者も多く、マナーを一番守らなければならない世代かと思うが、土日でないとき身動きがとれない。区役所などに行く機会もほとんどない。SNSなどから区の情報を得ていることはあると思うが、街なかに掲示や映像放映をしても、それを見るということにもなかなか至らない。例えばYoutubeへのリンクを区のホームページから張るなどして、動画の配信なら届く可能性があるのではないか。イベントなどには魅力がよっぽどないと出ていかない。地域と接点を持てるようになるのが、結婚して親となったときなど、そうなれば子育てや学校の間を通じたアプローチができるが、その前段階の世代はなかなか取り込むことができない。

板倉部会長 人を集めるということは本当に難しい。とは言いながら、現役世代は様々な情報を得て活用している世代だ。

反町委員 情報があふれているので、目に入っても興味がなければ、そのまま素通りし、全く残らない世代でもある。

橋本副会長 タウンニュースなどのメディアはどうか。どのくらい協力を得られるのか。

事務局 タウンニュースには、なかほらメディアネットワークの取組を進めていく中で、参加いただいております。定期的な会合も開催している。常にというわけにはいかないが、広報をお願いする機会はある。

コンサルタント 投げかければ、地域の情報は積極的に発信していただいております。限られた世代を対象とすることになるかもしれないが、地域の情報源として、よく読まれているメディアの一つと言える。

反町委員 取組提案としてのイベント・キャンペーンについて、私が担当になっているが、任期内ですべてできるわけでもないわけで、例えば、サイクルの日（3月19日）の定着などは、やはり何年か続けて徐々に浸透していくものだろうから、次の区民会議の委員の方にもできるだけ引き継いでいかなければならないと思う。今何か取り組んでいけることとして、広報大使の件については、これから丁寧に確認していかなければならないが、交渉によってはすぐに決めることもできるかもしれない。

私の知り合いで地方の観光大使などやっているアーティストの中には、「観光大使に任命されたけど5年以上何もやっていない」という方もいて、大使を引き受けているからといって必ずしも報酬を得ているわけでもないようである。もちろん、お願いするだけで何もしないのは問題だが、まずお願いしてみることも一つではないか。承諾いただければ一つの成果になる。その後はその都度交渉ということになるだろう。土日はイベントなどでかなり忙しいスケジュールとなっていることが多い。

萩原委員 やはり、プロだけにボランティア、無料ではやっていただけないという面もあると思う。そうなると、ある意味、名前だけの大使に終わってしまう。

反町委員 イベントをやる際に、せっかくお願いしても広報大使の方のスケジュールが合わず、

その場にはいないといった状況では困るので、多忙なアーティストであればあるほどイベントを開催する上での日程調整が困難、といった課題もあるかもしれない。

コンサルタント ただ任命しただけに終わらないように、何を願うのか具体的に固めておく必要があるのではないか。

事務局 例えば任命し、そのアーティストの方が行っているコンサートなどの場で啓発チラシを配っていただくなどは可能か。

反町委員 可能と思うが、そのイベントの主催者の承諾も必要だ。中原区のイベントであれば大丈夫ではないか。

事務局 啓発資料に登場していただくようなことも考えられる。

反町委員 宣伝材料用の写真をそのまま使わせていただく形であれば、費用はあまりかからないだろう。新たに撮影するならばそれなりの費用が発生しそうだ。

萩原委員 来ていただくのではなく、こちらから伺って任命するような形は可能か。

反町委員 状況次第だ。ただ報酬等を出せないのにいろいろ協力いただくのは申し訳ない気持ちもある。

コンサルタント 反町委員とアーティストのこれまでの関係があるから頼める状況もあるのではないかと。

反町委員 そのとおりだ。アーティストさんの活動を私が助けていることもあり、お互い様の関係がある。ただ、甘えすぎてはいけない。

コンサルタント ただ、ボランティア、無料でお願うのではなく、何らかのメリットをアーティスト側にも提示しなければならない。例えばアーティストのPR、知名度アップにもつながるような形を提示していく。

事務局(危機管理担当) 1日警察署長などをお願いする例も考えられる。イベント会場で寸劇やミニコンサートをやっていただき、その流れでホームページなどにも掲載してはどうか。

コンサルタント 具体的に名前が挙がっているアーティストの方などは、川崎区で一度、一日署長をされていたと聞いたことがある。

・第7回中原区区民会議について

資料2及び参考資料に基づき、第7回中原区区民会議の次第、進め方の案等について確認した。

7 その他

- ・参考資料4に基づき、次回の運営部会、今後の会議の開催日程及び候補日等について確認し、今後日程調整等改めて行うこととした。
- ・参考資料5に基づき、「平成27年度区民会議交流会」の開催日等について説明され、内容については、第7回中原区区民会議でより詳細に案内することとした。
- ・参考資料6「なかはら区民会議だより第26号」について紹介された。

8 閉会

以上により、すべての議題等を終了。

以上